



「事業の柱がしっかりしているうちに手を打たなければいけない、と感じたのがきっかけです」と坂本智美さん

アル・アートの花器はどれも比較的小さく、都市部の居住空間にフィットしていて、卓上の一輪挿しにピッタリ。
「一輪挿しに見るように、1本や2本の少ない花を立てて、その美しさを際立たせる生け方は日本の生け花の真骨頂だと思うんです。庭や

現代の生活にフィットした花器

栃木県足利市でアルミニウム加工業を営む丸信金属工業は、11年前からアルミの柔らかい特性を生かしたインテリア製品を「アル・アート」という自社ブランドのシリーズで売り始めた。売れ筋は、伝統的な「一輪挿し」のイメージを現代の洋風生活空間の中で再現した花器。坂本智美さんが、NECを辞め家業で手掛けた初商品だ。坂本さんはこの商品の営業を足掛かりに、多くの新規取引先を開拓しようと奔走中だ。

智美さんの案内で工場をのぞいてみると、アル・アート製品をつくる班は、スタッフも明るく全体に活気がある。他の班とは違って、製作過程にデザイナーや加工担当者のちよつとした創意工夫が反映され、アート作品の性格が強いことが、その原因かもしれない。
この会社が創業したのは大正11年。当時、先端技術を誇った中島飛行機のエンジン技師だった智美

アルミニウム製の現代版一輪挿しで
会社の認知度アップ

丸信金属工業 坂本智美さん

栃木・足利市

「家業は私が守る」
嫁と娘の奮闘記

特集

古参の職人さんとのバトルであったり、女性の感性を生かした工法改善や新規販路の開拓であったり。「自分がこの会社の跡を継ぐ」と決意した嫁と娘が一日一歩であっても細かなイノベーションを続けている。日々奮闘する姿を特集した。